

2 (ア) 4 (イ) 5 (ウ) 4

(解説) (ア)(イ) 〈全文訳〉参照。(ウ) b 「ミサは、高齢者は自立支援ロボットによってひとりで浴室まで歩くことができると言っています」 本文13~15行目参照。 e 「ミサは彼女のクラスメートと介護ロボットについて考えを共有したいと思っています」 本文最終段落参照。

〈全文訳〉

みなさん、こんにちは。私はミサです。私は先月、介護ロボットについてのテレビ番組を見て、それらに興味を持つようになりました。今日はそれらについてお話しします。介護ロボットは、生活の中で助けを必要とする高齢者のお世話をするために使用されています。現在、以前より高齢者が増えているため、これらのロボットの需要が高まっています。政府の報告によると、2000年には65歳以上の人口は2,240万人でした。2018年には、その数は3,557万人となり、彼らは日本の総人口の28.1%を占めていました。政府は、65歳以上の人口は2040年には35.3%を占めるだろうと言っています。

ここでは、3種類の介護ロボットを紹介します。1つ目は「パワーアシストロボット」と呼ばれています。このロボットは、高齢者の世話をする人々が高齢者をベッドや浴室に連れて行くときに使用されます。たとえば、「パワーアシストロボット」の一種の「パワーアシストスーツ」というロボットが注目を浴びています。介護者はそれをスーツのように身につけ、高齢者をベッドや浴槽まで運びます。高齢者を運ぶことは介護者にとって非常に大変な仕事です。しかしながら、このロボットの助けで、介護者は高齢者をより容易に運ぶことができます。

2つ目は「自立支援ロボット」です。このロボットの助けがあれば、高齢者はだれかの助けなしに多くのことをすることができます。たとえば、そのロボットは高齢者が自分で浴室まで歩いて行きたいときや物を運びたいとき、食事をしたいときに役立ちます。(11-C) 高齢者の中には、だれかに助けを求める必要があることを申し訳ないと感じる人もいます。このロボットのおかげで彼らは自分で物事を行うことができるので、彼らはとても喜んでます。

最後は「コミュニケーションロボット」です。それは人工頭脳を持っていて、話すこと、歌うこと、そして人々と会話することさえできます。中にはかわいい動物に似ているものもあります。たとえば、ある日本の企業は本物の犬のように見えるコミュニケーション

ロボットを開発しました。それはさまざまな感情を表すことでペットのように振る舞います。そのため高齢者はそれといっしょにいると楽しい気持ちになれます。実際、政府の報告によると、介護を受けている人々の約30%は、必要な介護の量が減るだろうということです。たとえば、ベッドから起き上がれなかったある高齢者は、起き上がってロボット犬と遊んで楽しむことができるようになりました。

現在、多くの人がロボットから介護を受けることに対して前向きな意見を持っています。2018年と2011年に、介護サービスを提供しているある企業が調査を行いました。2018年には日本に住む40歳以上の1,238人が回答しました。彼らのうち80%以上がロボットから介護を受けることに対して前向きな意見を持っていたのです。2011年の調査では、46.9%の人がロボットを使いたくないと回答しました。なぜならば、彼らは人間に世話をしてもらいたいと思っていたからです。

(11-A) 多くの人が介護ロボットは高齢者にとってよいものだと考えています。しかし、このロボットは日本で多くの介護施設で使われてはいません。それはなぜでしょうか。その理由は2つあります。1つ目の理由は、高いコストです。多くの企業が値段を下げようと試みっていますが、一部のロボットのコストは数十万円円します。2つ目は、介護者がロボットの使い方を学ぶ必要があることです。(11-B) それは一部の介護者にとって大変な作業なため、彼らはミスをするのではないかと心配しています。

介護ロボットがより多くの介護施設で使用される前に、これらの問題を解決する必要があります。しかし、私たちはそれらの問題を解決するのに多くの時間をかけすぎることではできません。なぜならば、私たちの国では2025年には34万人、2035年には79万人の介護者が不足するからです。将来的にロボットは介護の分野でより重要な役割を果たすと私は確信しています。そのため、私は大学でロボット工学を勉強したいと思っています。みなさんは介護ロボットについてどう思いますか。それらについていっしょに考えましょう。ご清聴ありがとうございます。